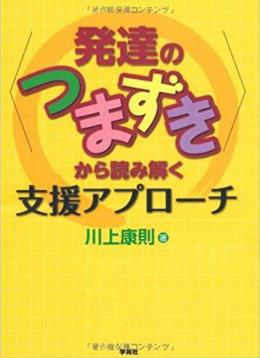


参考図書一覧

	<p>「発達をつまづきから読み解く支援アプローチ」 学苑社 川上康則（著）</p> <p>授業場面・生活場面のあるあるから子どものつまづきを読み解くサインがたくさん！</p> <p>子どもを取り巻く環境によって、子どもの育ちは変わります。「つまづきを読み解く」とは、その子に「できない部分を突き付ける」のではなく、できないことやうまくいかないことの裏（背景）にひそむ、つまづきの原因に気づくことです。</p>
	<p>「発達気になる子の感覚統合あそび」 ナツメ社 川上康則（監修）</p> <p>見ただけではわからない！子どもの行動を感覚のつまづきから理解できる！</p> <p>『触覚』『平衡感覚(バランス感覚)』『固有感覚(筋肉や骨を動かす感覚)』という3つの感覚に着目し、その観点から子どものつまづきの理由を分析しています。それぞれの子どもにあった合計125の遊びを紹介しています。</p>
	<p>「学びにくい子への国語・算数」つまづきサポート 明治図書 村井敏宏・山田充（著）</p> <p>作文、計算、テストから読み取れる新しい実態把握の視点！</p> <p>子どもが書いた作文、計算、テスト等に、ただ自動的に○×を付けて返却しているだけかもしれませんが、そこには支援のヒントが詰まっているのです。子どものつまづきの背景にある認知特性(聞く力、見る力、ワーキングメモリ等)に視点を当て、特性に応じた指導につなげていきます。</p>
	<p>「通常学級でできる発達障害がある子の学習支援」 ミネルヴァ書房 内山登紀夫（監修）・川上康則（編）</p> <p>氷山モデルという考えで、気になる行動の背景の要因を探る！ 個への支援方法や集団での取り組み方法がわかる！</p> <p>表面に現れるつまづき(うまくいかなさ)がよく似ていても、背景になる要因は子どもによって異なるかもしれません。その検討ページを活用しながら、子ども一人ひとりのつまづきを読み解くヒントになります。</p>
	<p>「発達障害のある子どもができることを伸ばす！思春期編」 日東書院 杉山登志郎・辻井正次（監修）</p> <p>社会で楽しく生きるために今、何をすべきか！ 思春期に身につけていきたいことが具体的にわかる！</p> <p>思春期は、二次性徴の中で、今までは子どもとして許容されていた行動が許されなくなり、新たに大人としてのルールを学びなおすことが求められます。思春期の発達障害の子ども達の支援に必要な情報がまとめられています。</p>